

なみき

理念

愛をもって誠を尽くす

- 1.相手の立場・心情を尊重し、最善の方法を継続して提供する。
- 2.自らの行動に責任を持ち、職務心得に則り絶えず評価・反省を怠らない。



コミュニケーションの在り方

副院長 小林 建仁



私は2013年3月に中部ろうさい病院を定年退職し、4月よりメディコ阿久比に勤務、2014年4月より並木病院で副院長として職務を行っています。医療安全を担当することになり、ヒヤリ・ハットの報告書に目を通してあります。そこには、どこの病院でも起きている同じような内容が報告されています。並木病院に於いては、何か出来事が起きた際、その時現場にいる人たちが職種を超えて協力し合い、事が大きくなならないよう速やかに対処し、コミュニケーション良く、チーム医療を実践している懸命な姿が見えてきます。

安全で安心のできる医療を提供するためには、職員間のコミュニケーションが最も大切と考えます。コミュニケーションの醸成には、お互いを尊重する気持ちが重要です。その中で有意義な対話が始まり、意思疎通がはかれるようになってまいります。職員ひとりひとりが専門職としての知識を深め、知恵を働かせ、おかしいと感じる感性を磨き、おかしいと言える職場環境を育んでいきましょう。そのような環境が整えば、病院の組織としてのコミュニケーション能力は格段に高くなり、医療事故に繋がりにくい出来事も、チーム力で未然に防ぐことができるようになってまいります。それは、とりもなおさず“愛をもって誠を尽くす”並木病院の理念にも通することだと思います。

並木病院のPRをひとつ。注目すべきは昼食がとても美味しいということです。患者さんの常食とのことですが、基本和食で極めてヘルシー、根菜類やみそ汁が付いてきます。レストランのランチよりはるかにお得です。並木病院でともに働き、ともに美味しいランチを食べてみませんか？

並木病院は地域の発展を応援しています。

トピックス



■「物忘れ外来」始めました!

院長 山本 纈子

世界で最初に超高齢社会（高齢者が人口の21%以上の社会）に突入した我国の認知症は460万人、其の予備軍である軽度認知障害は400万人とされ、認知症対策は重要かつ喫緊の問題です。

そこで神経内科医4名を擁する並木病院でも地域社会貢献の一環として、並木祥代理事長の方針で認知症診療に精力的に取り組むことになりました。認知症は、アルツハイマー病、び漫性レビー小体病など多くの疾患の総称で、疾患により症状も経過も異なりますので確定診断に不可欠のMRIも10月には稼働の予定です。

物忘れ外来は、並木病院のみで完結するものではなく、先ず並木病院で患者さんの診断確定・家庭状況把握を実施し、可能な間は訪問診療・訪問介護を利用して在宅で診療、肺炎など身体的な疾患が合併すれば一般病院に協力を要請、譫妄・暴力的行為などが出現すれば精神病院に依頼するなど多くの連携が必要となりますが、事例に即して連携を構築していきたいと考えています。

甲状腺機能低下症、うつ病など早期発見、早期対応で治る認知症もどきもありますが、治癒不能な認知症では、患者さんや家族に適切な助言と治療を通して一緒になって対応したいと思いますので、気軽にご相談ください。



■MRIの導入

X線科長 北條 一人

この度、当院で物忘れ外来を開設するにあたり、MRI装置を導入することになりました。MRIとは（Magnetic Resonance Imaging；磁気共鳴画像）の略語で強力な磁石でできた筒の中に入り、磁気の利用して体内の状態を撮影する検査です。CT装置と違い放射線を使用



しませんので放射線被曝がありません。しかし、強い磁力を検査で使用するため、手術等でペースメーカーや金属（金属の材質によります）が入っている方は、検査を受けることができません。

MRI検査では、造影剤を使用せずに血管の状態を見ることができます。なので、薬による副作用などもなく安心して検査を受けていただけます。

認知症の診断には、画像診断が重要になります。日本では、50%以上がアルツハイマー型認知症で、次いで脳血管性認知症（20～30%）となります。認知症の方は、健康な人と比較すると脳の萎縮や小さな梗塞があることが多く、血流が慢性的に低下しています。

MRI装置は梗塞部位などの診断に優れています。また組織への血流量を画像として表示することができます。その為、頭部MRI検査を受けることにより脳萎縮の状態や慢性的な血流動態を評価することができます。

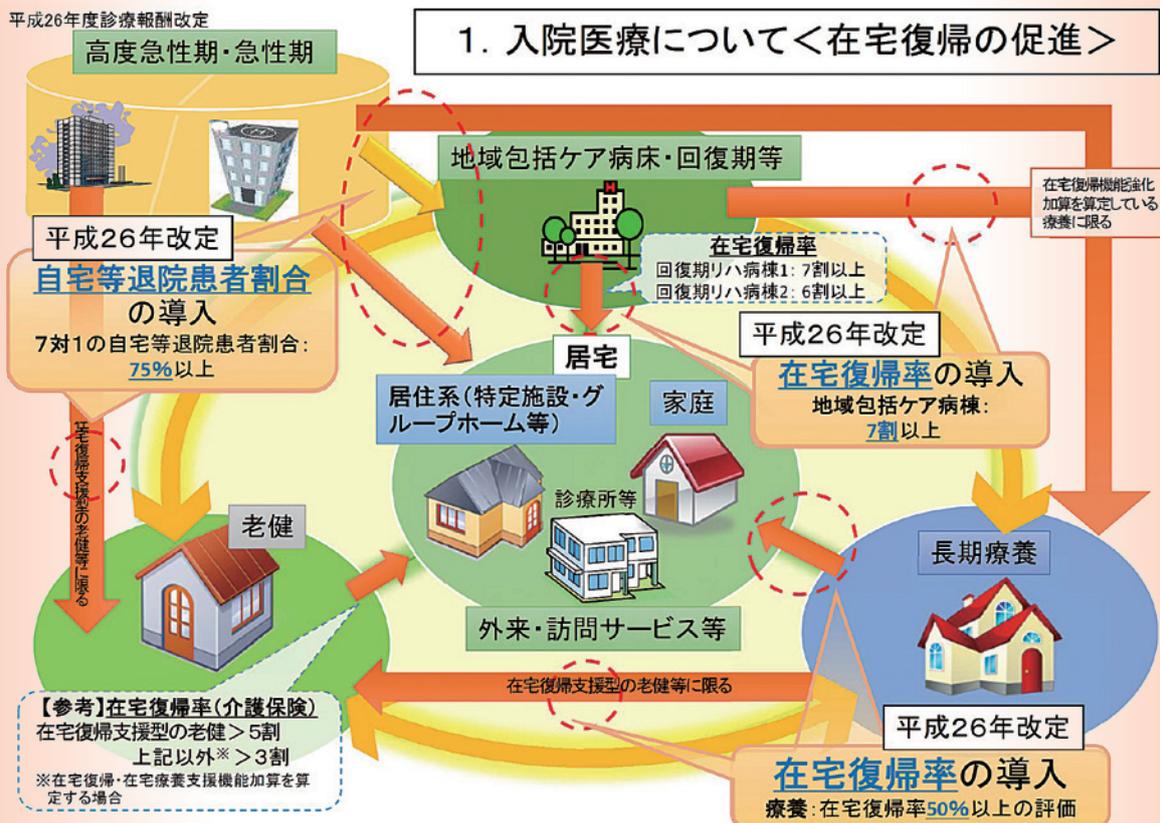
医療の方向性について

事務長 立木 博巳

今年の診療報酬改定では、消費税が8%に上がることへの対応と、2025年問題（団塊の世代が75歳になり国民の4人に1人が高齢者となる）への対応について本格的な取り組みが示されました。2025年問題では、高齢者が増えるという単純な問題でなく、高齢者が増えることで、病気や要介護状態になる国民が急激に増加し、医療費や介護費用が増大することです。そこで改定では、それらに対応するシステム作りに重点が置かれた内容となっています。

下記の図は、厚生労働省がそれらの問題に対応するシステムを示したものです。高齢者が病気や介護状態となっても、住み慣れた「家で安心して過ごせる」ことを目標とした内容となっています。

当院もこれを受けて、地域で過ごされる皆様方のお役に立ちたいと考えております。



外来診療

H26.6.1時点。変更する場合がありますので、お問い合わせください。

		月	火	水	木	金	土
午前 9:00 ~ 12:00	I	内科	内科	内科	内科	内科	内科
		循環器科	神経内科	神経内科	消化器科	神経内科	
	II				循環器科		
		III					
	検査	胃カメラ	胃カメラ	胃カメラ	胃カメラ	胃カメラ	
		腹部エコー	腹部エコー	腹部エコー	腹部エコー	腹部エコー	
心エコー				心エコー			
午後 13:00 ~ 17:00	I	内科	内科	内科	内科	内科	
		神経内科	呼吸器科	消化器科	神経内科		
	II		皮膚科				
		人工透析	人工透析	人工透析	人工透析	人工透析	

介護職員初任者研修開校

並木会では週1回/土コース・週2回/火金コースで介護職員初任者研修を開校しております。
詳しい日程等については随時お問い合わせください。

厚生労働省教育訓練
給付制度対象講座



受講料64,800円 定員20名
担当 永井・加藤 TEL 052-848-2000

職員募集

24時間保育
施設あり

■看護師、
介護職員
(担当 看護部 苅田)

■言語聴覚士
(担当 リハビリテーション科 鈴木)



並木病院の正面玄関に入って直ぐに喫茶「KAERU」があります。平成26年4月より誰でも気軽にご利用頂けるよう体制を変更致しました。

ご注文は、カウンターで先に注文して頂きますが、セルフサービスではありませんので席でお待ち頂きます。又、自動販売機で飲み物を購入されても喫茶をご利用頂けます。

軽食では、管理栄養士が健康にこだわった身体に優しい1日5食限定の日替わりランチが好評です。

是非、並木病院に来られましたら、ご利用をお待ちしております。



喫茶「KAERU」



アクセス



交通のご案内

●公共交通機関でお越しの場合
地下鉄鶴舞線、平針駅または赤池駅より徒歩10分

医療法人 並木会 並木病院

TEL(052)848-2000 FAX(052)848-2020

〒468-0013 名古屋市天白区荒池二丁目1101番地

- ケアプランセンター平針なみき TEL (052) 848-2067
- ヘルパーステーション平針なみき
- 並木クリニック TEL (052) 691-2000
- グループホームほっと館なみき TEL (052) 691-2515

介護老人保健施設

- メディコ阿久比 TEL (0569) 48-1156
- メディコ春日井 TEL (0568) 88-6000
- メディコ守山 TEL (052) 736-5585
- メディコ平針 TEL (052) 802-0023

特別養護老人ホームもありますのでご相談ください。

ホームページ: <http://www.namiki.or.jp/>



この印刷物は、環境に配慮した
素材と工場で製造されています。



環境に配慮して大豆油インキを使用
しています。